



年頭のあいさつ

公益社団法人 京都保健会
理事長 三浦次郎



ります。職員・共同組織、地域の方々と力を合わせ、より良いものになりたいと思います。宜しくお願ひします。

さて、昨年9月19日、国会を取り巻く市民、日本全国でわき上がる反対の声を無視し、戦争法が強行採決されました。今年3月29日に施行されます。南スーダンでの駆けつけ警備、南シナ海への自衛隊の派遣など、安倍内閣は急速に自衛隊を変貌させ、この国を戦争する国にしようとしています。

医療も介護も、平和であってこそ、その役割が発揮できるものです。戦争は最大の健康破壊であり、人権侵害です。

今年、2月7日に京都市長選挙、夏には参議院選挙があります。誰もが必要な医療・介護を受け、安心して住み続けられる世の中をつくるため、一緒にがんばっていきましょう。

特に、若い世代の方に。未来はあなたたちのものです。皆さん、そして皆さんの子どもさんが、戦争に引張り出されないように、今が踏ん張り時です。皆さんの奮起を期待します。

2. 南太秦はじめ近隣の方々にとっては、静かな住宅街に救急中心の病院が移転してくるわけで、生活環境が大きく変わることになります。ただ、右京区は救急病院が最も少ない区の一つですので、そうした点でも貢献できると思っています。安心・安全なまちづくりに貢献します。



あけましておめでとうございます。
京都保健会は今年3月に創立60周年を迎えます。この長きにわたり、支えて下さった方々、様々な指導をして下さった方々に、まず、お礼申し上げます。

今、当会では、京都市民医連中央病院の総合移転計画を具体化しています。南太秦に、2019年移転をめざしています。

「総合移転」と名付けたのは、以下の4点を実現するためです。

1. 中央病院の機能を全て移転します。新しい土地でどう発展させるかを総合的に検討します。

3. 中京区の方にとっては中央病院がなくなるようになります。残る太子道診療所などの診療所・介護事業所でのような医療・介護活動をするのか、検討します。

4. 京都市民医連のセンター病院として前進してきた歴史を踏まえて、総合移転事業が京都市民医連の発展にとって有意義なものになるよう、成功に向けて全力をあげます。

当会ができて60年。その内、中央病院ができて29年。次の30年を見据えた計画にな

